

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

東大阪大学

東大阪大学短期大学部

令和6年8月

東大阪大学・東大阪大学短期大学部 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

こども学部こども学科（小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状）
短期大学部実践食物学科（中学校教諭二種免許状（家庭）、栄養教諭二種免許状）
短期大学部実践保育学科（幼稚園教諭二種免許状）

大学としての全体評価

建学の祖、村上平一郎は学園創立に際し「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げ、本学が目指す「学問を通して人間をつくる教育」の支柱となっている。本学は、一貫して地域社会と共に、地域の方々に支えられ、地域に開かれた小規模大学として歩んできた。この建学の精神は時代を終えて普遍性を持つものであり、今なお受け継がれ、本学教育の基盤となっている。

本学の使命・目的は、この建学の精神の基、「教育基本法並びに学校教育法の示すところ」に従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間をつくる教育を目指すとともに、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とする」としている。

この本学の使命・目的及び教育目的を達成するため、こども学部こども学科では小学校教諭及び幼稚園教諭として、短期大学部実践食物学科では中学校教諭（家庭）、栄養教諭として、短期大学部実践保育学科では幼稚園教諭として広く社会に貢献できる教員養成を実施してきた。

教員養成に当たっては、学科会議及び教学支援部を中心に学科としてのカリキュラムを実施するとともに、全学的な組織として教職課程委員会を設置して教職課程の運営体制を整備している。また、学外実習委員会を置き地域の各校園や施設と連携して実習指導を行い、キャリアサポートセンターにおいて教員採用試験の合格率の向上を目指す取り組みを実施している。これら取り組みの結果、小規模の大学・短期大学でありながら、毎年教員採用試験に合格する卒業生を輩出することができており、これらの成果は、毎年作成される事業報告書に記載され公表している。

今後も、教職課程の自己点検評価を進めることで、より質の高い教員養成を実施する努力を続けていきたい。

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

学長 吉岡 眞知子

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	1 2
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	1 6
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	1 7
V	現況基礎データ一覧	1 8

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：東大阪大学・東大阪大学短期大学部
- (2) 学部名：こども学部 こども学科／国際教養こども学科
短期大学部 実践食物学科／実践保育学科／介護福祉学科
- (3) 所在地：大阪府東大阪市西堤学園町3丁目1番1号
- (4) 学生数及び教員数

(令和6年5月1日現在)

教職課程を有する学部・学科等の学生数：

こども学部こども学科 180名

短期大学部実践食物学科 81名

短期大学部実践保育学科 61名

教職課程を有する学部・学科等の教員数：

こども学部こども学科 教職課程科目担当 19名／全体 60名

短期大学部実践食物学科 教職課程科目担当 9名／全体 37名

短期大学部実践保育学科 教職課程科目担当 10名／全体 33名

2 特色

平成28(2016)年度より教育効果を得るために以下のような本学の目指すビジョンを策定した。

1. 「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」
2. 「自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立を目指す」
3. 「地域に根差した大学として、地域と繋がり貢献できる大学」
4. 「世界の人たち、地域の人たちとつながり社会で活躍できる人材の育成」

さらに使命として、「社会人としての基礎学力を修得し、こども学の専門性を身に付け、子どもの健やかな幸せを願い、世界の人たちと共に未来を切り開く人材の育成」を掲げ、

<大学の目指す人材>

1. 社会人としての基礎学力、社会性と専門性を身に付けた感性豊かな人材
2. グローバルな視野で社会を支え、世界の人たちとともに活躍できる人材
3. 子どもの視点で「こども」を追究し、子ども社会を支える人材

<短期大学部の目指す人材>

1. 職業人としての基礎学力と実践力を磨いた人間性豊かな人材
2. 実践力を社会で生かし社会貢献できる人材
3. 地域を愛し、地域を支え地域で活躍できる人材

を示し、これに基づいて教職課程において人材の育成を実施している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

建学の精神を継承し、各学部・学科の人材養成目的に従い、一般教養並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献するために、次項で述べる三つのポリシーを策定し、以下のように学部・学科ごとの教職課程で取得できる資格の要件を満たすことを学習成果としている。

【こども学部こども学科】

先に挙げた本学の使命、目的、教育目的を実現するために「本学の目指すビジョン」の基に「本学の目指す人材」を示し、それに基づいて三つのポリシーを作成している。

アドミッション・ポリシー

子どもをめぐる諸問題に意欲的に取り組める人、知的関心と豊かな情緒によるコミュニケーション能力を持つ人、事象や問題点を正確にとらえて意味づける力を持ち、筋道だった考察と表現ができる人を望みます。

カリキュラム・ポリシー

1. 広範で多彩な基礎知識と子どもを学ぶために欠かせない豊かな人間性を養うため、人文・社会・自然・総合・外国語・保体科目に区分した全学に共通する教養科目を設置する。

2. こども学を修めるにあたり必要な専門知識及び技能を習得するため、必修、基礎選択、選択、三・四年次専修科目を設置する。

3. こども学を修めるとともに、教育者としての免許状及び保育士証を取得するため、自由選択科目を設置する。

ディプロマ・ポリシー

1. 人類はもとより生きとし生けるものに対し、やさしい気持ちで接する心を持ち、生きているものを大切にすることをもち、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人となる。

2. 社会人としての必要な教養と子どもに関する専門知識及び技能を習得し、広い視野で考える力、主体的に課題を見つける力を身につけ、子どもの立場に立って考え、発言し、社会に貢献できる人となる。

3. 人や地域から恩恵を受けていることを喜び、感謝するとともに、相手の立場に立って考えることを教え、人の痛みがわかる人となる。

東大阪大学短期大学部

アドミッション・ポリシー

【実践食物学科】

食物や栄養に関心を持ち、専門知識と技能を得て、将来の生活に役立てたいと考えている人、「食」をめぐる社会環境について見識を深め、食物栄養の分野で「人」の「健康」にかかわって社会で活躍したいという意識を持った人を望みます。

【実践保育学科】

“子どもが好き”であることは必須条件であるが、それだけではなく、教育・保育の場は専門的な知識と技術、立派な人格を備えた「人物」が求められる社会であることを認識し、その目標達成のために積極的に学び、成長しようとする人を望みます。

カリキュラム・ポリシー

東大阪大学短期大学部では、実践食物並びに幼児教育及び幼児保育、介護福祉に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成しています。

【実践食物学科】

1. 多様な基礎的知識と、基本的な学習能力の獲得のため全学に共通する一般教養科目を設置する。
2. 食の大切さを学び、健康で豊かな食生活が送れるように積極的に努力し、実践できる能力を養い、社会的に貢献できる人材を養成するため専門科目を設置する。
3. 食に関する科目を修めるとともに、教育者としての免許状を取得するため、教職科目を設置する。

【実践保育学科】

1. 多様な基礎的知識と、基本的な学習能力の獲得のため全学に共通する一般教養科目を設置する。
2. 幼児期における教育及び保育に関わる者に求められる深い知識を習得し、人間的に豊かな人材を養成するため専門科目を設置する。
3. 幼児期における教育及び保育に関する科目を修めるとともに、教育者としての免許状及び保育士としての保育士証を取得するため、教職科目を設置する。

ディプロマ・ポリシー

東大阪大学短期大学部で以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し

た学生は、卒業が認定されます。

【実践食物学科】

1. すべてのことに感謝の気持ちを持ちながら、健康を維持するために食生活全般に興味・関心を持つことのできる人となる。
2. 常に向上心を持って努力し、多様な分野で広い視野を持って活躍できる人となる。
3. 自分を大切にし、健康維持に努めるとともに、他の人にも心を配って社会に寄与・貢献できる人となる。

【実践保育学科】

1. 人間が生きていくことの意味を伝え、自然に対する畏敬の念を抱き、それを守り、科学や文化、芸術に対する感受性を伸ばすことのできる人となる。
2. 勉強や仕事をすることは、即ち文化の継承だとの認識に立ち、物を大切にし、健康の大切さを認識し、精神的な豊かさの重要性を伝えられる人となる。
3. 世界には多様な価値観があることを教え、差別やいじめを許さない心を育て、自分の大切さ、ひいては他人を理解することの大切さを伝えられる人となる。

これら各学部・学科の三つのポリシーは、「キャンパスガイド(こども学部)」「カレッジガイド(短期大学部)」、本学ホームページ、大学案内等に明示し、学生及び外部への周知を図っている。

〔優れた取組〕

こども学部こども学科及び東大阪大学短期大学部実践保育学科は、指定保育士養成施設としても登録しているため、幼稚園教諭免許と保育士証を同時に取得することが可能なように、カリキュラム編成を行っている。認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、二つの免許・資格が必要であることを、オリエンテーションをはじめ、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をし、できる限り学生が二つの資格をすべて取得するように指導している。

このため、幼稚園教諭免許と保育士証の共通科目を複数設置することで、二つの免許・資格取得を目指す学生の取得単位が増えすぎることの防いでいる。

〔改善の方向性・課題〕

今後も、オリエンテーションだけでなく、リメディアル教育やキャリア教育の時間でも三つのポリシーに触れる機会を増やしていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 東大阪大学学則
- ・資料 1-1-2 : 東大阪大学短期大学部学則
- ・資料 1-1-3 : キャンパスガイド 2023 表書き、Ⅲ. 履修ガイド (p33-58)
- ・資料 1-1-4 : カレッジガイド 2023 表書き、Ⅲ. 履修ガイド (p29-47)
- ・資料 1-1-5 : 大学案内 2024
- ・資料 1-1-6 : ウェブサイト「建学の精神と 3つのポリシー」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/about/feature/>
<https://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2020info/policy.pdf>

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するに当たり十分な教育業績・研究業績を有する教員及び学校等において長年にわたる教職経験のある実務家教員を適切に配置している。教職課程のカリキュラムを実施するための教学支援部、地域の各校園や施設と連携して実習指導を行う学外実習委員会、キャリア支援を行うキャリアサポートセンターといった組織を設置し、そこに教員と職員を適切に配備して協働体制を構築している。

教職課程の運営に関する全学的な組織としては、教職課程委員会を設置して学部・学科の教職担当者との適切な役割分担を図っている。

本学は、キャンパスネットワークを構築しており、学生、教職員は、セキュリティポリシーに基づいたアクセス権を所持している。教職員は全員個別に 1 台のデスクトップパソコンが支給されている。また、Google Workspace for Education を使用しているため、上記ネットワーク及び Google Drive 上でファイルの管理、共有を行うことができ、学生は、スマートフォンまたはノートパソコンを使用して、G メール、Google Classroom 等の Google のシステムを利用することができる。情報処理演習室には 45 台の Windows 10 デスクトップパソコンがあり、各教室にはプロジェクター、スクリーン、AV 機器等は配置されており、学生ホールをはじめ主要な教室において無線 LAN を利用することができ、休み時間や空き時間においてオンライン授業に参加することも可能である。

教員に対しては、情報教育推進委員会が FD・SD 委員会と共催で、ICT 活用教育研修会を開催して、情報技術の向上に関するトレーニングを実施することで、各教室の機器を利用した効果的な授業を行うと共に、オンラインでの授業にも対応している。

各年度の前期終了時と後期終了時に授業評価アンケートを実施し、学生の授業に対する自己評価及び教員に対する評価を収集しており、これらの結果は各教員が、「UNIVERSAL PASSPORT」において担当科目ごとに確認することができる。

教員の業績等は、本学のホームページ「大学案内」の「教員紹介」にて公開している。

学部・学科における教職課程の学生の育成については、各年度に事業報告書にて自己点検されている。

〔優れた取組〕

教職課程で定められた学外実習において、実習担当教員だけでなく、全ての学科教員が学科会議や学内メールなどによって、実習生に対する情報を共有することで、適時アドバイスが行えるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

情報教育推進委員会が FD・SD 委員会と共催で実施している ICT 活用教育研修会を今後も開催し、情報技術の向上に関するトレーニング及びオンライン授業への対応を行えるようにしていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 : ウェブサイト「基本情報」「組織図」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/information/>
- ・資料 1-2-2 : 東大阪大学学外実習委員会規程
- ・資料 1-2-3 : 東大阪大学短期大学部学外実習委員会規程
- ・資料 1-2-4 : 東大阪大学教職課程委員会規程
- ・資料 1-2-5 : 東大阪大学短期大学部教職課程委員会規程
- ・資料 1-2-6 : UNIVERSAL PASSPORT (ゲストユーザーでログイン可能)
<https://star.higashiosaka.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>
- ・資料 1-2-7 : ウェブサイト「教員紹介」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/about/teacher/>

- ・データ : 授業評価アンケート 2023

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

入学試験時では、アドミッション・ポリシーに沿った質問による面接審査及び書類審査の総合評価により、本学学生としての適性・資質を確認している。また、入学試験合格者に対しては、入学前教育を実施し、入学までの学習意欲の維持とともに、アドミッション・ポリシーの周知徹底を図る機会にしている。

入学後は新入生オリエンテーション期間を設け、建学の精神と本学の教育方針、教育目的、教育目標が示され、教職課程と免許・資格及びその取得方法を主とした履修方法、学生生活上の注意、大学各施設についてキャンパスガイドあるいはカレッジガイドを用いて説明するガイダンスを行っている。ガイダンスは、各クラスを担当するアドバイザーを中心に実施している。一人一人の学生の近況等は、毎月の学科別会議や必要に応じて開く会議等を通して、学科教員で情報共有し、どの教員も同じ方向で学生指導を行っていただける共通理解につなげている。

【こども学部こども学科】

入学後の学生に対しては、教職を担うべき適切な人材を教育実習に参加させるため、学生には実習参加条件を満たすことを課している。1年次の実習基礎セミナー（Ⅰ・Ⅱ）の単位が修得済であることに加えて、初等教育実習（幼）履修者は、免許必修科目について前年度履修登録科目の欠格と不合格を合わせて3科目以下とすること、初等教育実習（小）の履修には、2年次前期までの免許必修7科目の単位修得を条件としている。

また、上記の条件を満たしていても、専門職としての倫理性や、授業実施能力が欠如している学生は、学科会議を経て実習を事前辞退とする場合がある。実習事前指導科目から再履修させることで、教職を担うべき適切な人材として実習に参加できるようにしている。

【短期大学部（実践食物学科、実践保育学科共通）】

学外実習を実施する前に、必要な教職課程科目を履修できていない学生については、実習対象者から外し、実習事前指導科目から再履修させることで、教職を担うべき適切な人材として実習に参加できるようにしている。

〔優れた取組〕

大学は、学生を自立させ、社会に貢献しうる人材として送り出すことが求められている。こうした学生の成長を促す具体的な教育を実施するため、基礎教育全般を調査・研究することを主眼に、平成27(2015)年度に「基盤教育研究センター」を開設した。

教職を担うべき人材の育成で重要視しているのは、「初年次教育」「リメディアル教育」「キャリア教育」である。基盤教育研究センターでは、これら三つの基礎学力、社会人基礎力を向上させるための具体的な学習方法等の開発を担い、その研究成果を社会に発信していくことを目指し、平成 28(2016)年度から、Web ドリルを導入し、入学前教育、入学後の日常的学習において、それを活用してきた。

こども学部こども学科では、1 年次科目「大学で学ぶ」においてスタディースキルを学ぶ初年次教育と、職業観を養うキャリア教育の土台を固め、2 年次科目「キャリアを考える」において、社会と自己を突き合わせながら職について考えるキャリア教育へと結びつけてきた。

短期大学部では、1 年次に「大学で学ぶ」、2 年次に「社会人になるには」において同様に Web ドリルで基礎学力、社会人基礎力を向上させている。

さらに、こども学科では令和 3 (2021) 年度に「キャリア形成とインターンシップ」を新設し、就職活動・インターンシップ参加といった実際の活動とともに行われるキャリア教育の実現を目指してカリキュラムを見直した。

Web ドリルは、基礎・応用・SPI の項目があり、基礎学力だけでなく SPI 対策にも通用するものとなっている。併せて、「基礎学力テスト」を前・後期で 2 回実施し、学生の実態把握も行ってきた。

〔改善の方向性・課題〕

現在、18 歳人口減少に伴う学生数確保には厳しさを増している中、大学の教育を取り巻く社会経済環境はめまぐるしく変化している。特に教員を希望する学生数の減少が著しく、こども学部こども学科及び短期大学部実践保育学科の入学者数の減少はその表れと考える。

教職を担うべき適切な学生を確保するためには、高校生や地元住民が参加できる行事の開催を通じて、キャンパスを訪問する人数を増やし、大学名を浸透させることが必要である。さらに、参加者の SNS における発信を促すことで、知名度の向上を目指す。

また、受験方法や試験内容、入試日程を検討し受験しやすいように、改善している。高等学校教員対象入試説明会やオープンキャンパスの内容や運営方法を工夫し、ホームページの活用やブログ・Instagram による広報活動の充実を図っている。

さらに、短期大学入学者減少の中、短期大学へのニーズを考慮し募集定員を変更(削減)し、希望する生徒のニーズに応えられるようにしていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : キャンパスガイド 2023 III. 履修ガイド (p33-58)
- ・資料 2-1-2 : カレッジガイド 2023 III. 履修ガイド (p29-47)

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

【大学・短期大学部共通】

キャリア支援関係の業務・支援を一元的に担当するための組織として、専任の教員を長とするキャリアサポートセンターを設置している。学生の就職状況については、大学の就職支援サイト「就活ナビ」(株式会社ディスコ提供「キャリタス UC」)より、学生本人はもちろん、ゼミ担当教員やセンター職員も随時入力することができる。また、毎月の教授会で学生の内定状況が報告され、すべての教員が情報を共有し、指導にあたる体制が確立されている。

また、専門的実践的力を身に付けるといった「大学改革プロジェクト」が策定した「本学の目指すビジョン」の中で重点項目としていた、リメディアル教育及びキャリア教育の充実、キャリア支援体制の整備に関しては、キャリアサポートセンターに加えて、基盤教育推進センターを設置し、基準項目 2-1 で述べた通り「初年次教育」「リメディアル教育」「キャリア教育」の三つの基礎学力、社会人基礎力を向上させるための具体的な学習方法等の開発を担っている。

【こども学部こども学科】

教職を目指す学生のキャリア支援の軸となる科目は、1年次「実習基礎セミナー」、2年次「キャリアを考える」、3年次「キャリア形成とインターンシップⅠ」、4年次「キャリア形成とインターンシップⅡ」である。実習基礎セミナー科目は、1名のコーディネーター教員と数名のゼミ担当教員によって運営している。ゼミ担当教員は10名程度の学生を担当として指導することになる。担任は原則2年次終了まで変更はなく、学生生活の前半2年間、学習面、生活面、キャリア形成面のアドバイザーとなる。

1年次の実習基礎セミナー科目では、こども研究センターが主催する「こども応援ひろば」をサポートし、附属幼稚園の見学、プレ実習と名付けられた附属幼稚園での4日間の実習を経て、幼稚園の運動会やバザーといった行事をサポートする。1年次後期の幼稚園実習事前指導の前に、周辺地域の親子、附属幼稚園の園児や保護者との交流を持つことで、高い意欲と目的意識を持って、最初の実習に取り組めるようにしている。

2年次の「キャリアを考える」科目は小論文作成に多くの時間を割く科目である。教育現場における教育者としての立ち位置や考え方をデータに基づいて述べる機会を提供することで、学生のキャリアを支援する。

3年次・4年次のキャリア形成とインターンシップ科目は、学生のキャリア形成を支援するための科目であり、90時間の学生のような様々なキャリア形成活動により単位取得が可能となる科目である。教職を目指す学生の、教育現場や保育現場でのボランティア活動もキャリア形成活動として認めている。教育実習や事後学習を通じて得た自身の課題を改善するため、さらなる現場経験を積む学生が増えている。

小学校教諭免許取得希望の学生には、東大阪市立西堤小学校の特別支援学級在籍児童のサポーターのボランティアを紹介している。また、ボランティア経験者からスクールサポーターの登録も行っている。他にも、放課後デイサービス（NPO 法人びよびよ会等）のアルバイトの紹介も行っている。

【短期大学部（実践食物学科、実践保育学科共通）】

一般教養科目にリメディアル教育を目的とした「大学で学ぶⅠ」（1年前期1単位）「大学で学ぶⅡ」（1年後期各1単位）を設けて、これを必修科目としている。これらの科目は、基礎学力や社会性を身に付けるだけでなく、それぞれの学科で取得を目指す免許・資格へのモチベーションを保てるような授業内容となっている。

また、キャリア教育を目的とした「社会人になるにはⅠ」（2年前期1単位）「社会人になるにはⅡ」（2年後期各1単位）を設けて、卒業生、各施設等の学外講師の講座を交えて専門職として働くことや生きることに通ずる講座・講義を実施している。

〔優れた取組〕

キャリアサポートセンターによる一般企業や専門職の採用試験対策講座に加えて、こども学科の専任教員が木曜日5時間目に「小学校教員採用試験対策講座」を開き、採用試験対策だけでなく教師としての自己形成や実践力の強化を促し、小学校教員志望の学生の受験対策を後押ししている。

〔改善の方向性・課題〕

短期大学部実践食物学科においても、教員志望の学生対象に、上記も「小学校教員採用試験対策講座」のような講座を開設する機会を検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：キャンパスガイド 2023 Ⅲ. 履修ガイド（p36,38-41）、V. 進路ガイド（p82）
- ・資料2-2-2：カレッジガイド 2023 Ⅲ. 履修ガイド（p29-47）、V. 進路ガイド（p76）
- ・資料2-2-3：ウェブサイト「キャリアサポートセンター」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/jobssupport/support/>
- ・資料2-2-4：ウェブサイト「基盤教育研究センター」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/jobssupport/ber-center/>
- ・データ：2023年度卒業時アンケート

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

【こども学部こども学科】

こども学科は指定保育士養成施設、および幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得が可能な教職課程として定められた指定科目に基づいたカリキュラム内容で教育を行っている。

教養科目においては、「日本国憲法」(2単位)「情報処理論」(2単位)が幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得の必修科目、「スポーツと健康 I」(1単位)「スポーツと健康 II」(1単位)は、保育士証・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得の必修科目である。卒業には教養科目 26 単位取得が必要であるため、外国語科目 6 単位を含めて 20 単位分の教養科目の履修が求められ、広範で多様な基礎知識や、豊かな人間性の獲得が可能となる。

専門科目は、必修・基礎選択・選択・三・四年次専修科目の 4 区分からなる。保育士証・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得の必修科目を履修することで、基礎選択・選択の 2 分野については、卒業要件を満たすことができる。必修に区分された科目には、1 年次配当の「こども学 I」があり、こども学を修める基盤となっている。4 年次配当の「卒業研究 I」「卒業研究 II」「卒業論文」に向けて段階的に 1 年次からの必修科目も、この区分で開講されている。三・四年次専修科目においては、「こどもと遊び」(2 単位)のみが、幼稚園教諭一種免許状必修科目であり、資格や免許の必修科目以外に最低でも 18 単位をこの区分から取得しなければならない。この区分の科目は三・四年次配当であり、教育・保育現場での実習を経験した学生が、それらの経験を踏まえた上で、卒業後に即戦力として子どもの健全育成に貢献する力を身に付けるための科目である。

自由選択科目は、教育者としての免許状及び保育士証を取得するための科目であり、卒業単位には含まれない。教育実習・保育実習および小学校教諭一種免許状の各教科や各教科指導法の科目が自由選択科目である。

【短期大学部実践食物学科】

実践食物学科の栄養士コースを栄養士養成施設として登録し、栄養士免許状の取得を目指すと共に、教職を目指す学生のために栄養教諭二種免許状及び中学校教諭二種(家庭)免許状の取得ができる教職課程を設け、製菓衛生師コースを製菓衛生師養成施設として登録し、それぞれ定められた指定科目に基づいたカリキュラム内容で教育を行っている。

【短期大学部実践保育学科】

指定保育士養成施設として登録し、保育士証の取得を目指すと共に、幼稚園教諭

を育成するために幼稚園教諭二種の免許取得ができる教職課程を設け、それぞれ定められた指定科目に基づいたカリキュラム内容で教育を行っている。

認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭二種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを、オリエンテーションをはじめ、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をし、できる限り学生が両資格を取得するように指導している。

〔優れた取組〕

教養教育として、ICT 活用力を重視している。学生のノート PC を必携とし、「情報処理論」科目では、PC アプリの活用のみではなく、ICT を活用した学び方を身に付けることも目指している。

〔改善の方向性・課題〕

近年は教職課程を履修しながら、免許取得を第一の目的とせず、子どもについて学び、一般企業への就職を目指す学生も増えている。これらの学生に対する、モデルカリキュラムが提示されていないことが課題である。

こども学部こども学科では、免許や資格取得をめざす学生の実習科目の基礎となる「実習基礎セミナー」科目の内容に、企業インターンシップのレディネスの要素を加え、学生の志望に合わせて提供するプログラムを変更できる体制を整えることを計画している。

また、短期大学部実践保育学科では、来年度から長期履修学生制度を導入し、3年間の免許取得を目指すカリキュラム編成を検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：キャンパスガイド 2023 III. 履修ガイド (p36-41,53-55)
- ・資料3-1-2：カレッジガイド 2023 III. 履修ガイド (p30-31,33-34,43-44)

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

教科外教育の指導力育成（総合的な学習の時間 委員会活動 学校行事）を目指し、こども研究センター主催の「こども応援ひろば」において、こども学科4年生と実践保育学科2年生が主体となり来場した親子に対して発達段階を考慮した遊びを提供している。各ブースのコンセプトに、SDGsの理念や目標を盛り込みオリジナルロゴマークを各所に掲示し持続性社会への貢献の芽の育成を目指した。東大阪市と連携し、公式キャラクターのトライくんの参加、市のツイッターでの速報案内、ケーブルテレビの放映等の地域連携を実施している。

特別支援教育や教育心理学のカリキュラムにおける障害のある児童・生徒の心理や、理解と支援において、実際に障害のある人たちとの関りを体験するため、地域における障害者施設等でのボランティア活動も紹介している。

また、地域との連携においては、東大阪ダウン症の会「そよ風の会」や大阪ダウン症の会「クローバーの会」等でのボランティア活動も紹介している。「そよ風の会」では、保護者のミーティングの間のダウン症児の保育を中心に、「クローバーの会」では、喜びフェスタ等のイベントのお手伝いを行っている。その他、「東大阪の障害児教育をよくする会」では、会議に参加者の障害のある子どもの保育を担当している。

その他、公的図書館での大学生ボランティアによる絵本の読み聞かせ会、附属幼稚園でのお餅つき大会のお手伝い、NHKからの依頼イベント参加（紙飛行機飛ばし会予定）、八戸ノ里公園「ふれあいのつどい」、東大阪リージョンセンターこどもイベントなど、実習以外の取り組みから、子ども・保護者と関わる体験で学びを得ている。

また、こども学科では、小学校教員としての実践的指導力育成に向けて、GIGAスクールを担える教員養成を念頭におき、デジタルホワイトボード活用演習、Microsoft OneNote 活用演習、ロイロノート・スクール活用演習、MEXCBT 活用演習や模擬授業を実施している。

〔優れた取組〕

【東大阪大学こども研究センター】

平成15(2003)年4月、こども学部こども学科の設置にあたり、「子どもの健やかな成長・発達を願い、子どもの視点にたち、社会状況や子どもの実態を踏まえて、子どもに関する総合的な教育・研究を進めていくことを目指す」ことを設置の趣旨に示し開設した。この趣旨に沿って「こども学」研究を行う機関として、平成16(2004)年に9号館を建設し、2階に「東大阪大学こども研究センター」を開設した。

「東大阪大学こども研究センター」は、東大阪市やその近辺の住民が利用することによって地域貢献の場となり、教職課程の演習や実習を実施することで、学

生の教育環境の充実を目指し学生や教員の「こども学研究」の場になるよう運営している。

本センターの取り組みが東大阪市で評価され、平成 22(2010)年度からは「地域子育て拠点事業（つどいのひろば事業）」として助成を受け、保育室や保育観察室、こども文庫等を完備し、さらに充実した施設整備を行い、センター職員（幼稚園教諭、保育士資格がある職員）が教員との連携のもと管理運営し、月例教授会で実績報告もなされている。

【学内就職説明会の実施】

令和 5 年 6 月 30 日に、実践保育学科と大学こども学科の学生を対象とした合同就職説明会（保育所・幼稚園・施設等）を実施した。市内すべての保育施設に呼びかけ、57 団体の参加があり、この説明会に大学を含め約 90 名の学生が参加した。

さらに、令和 5 年度は 5・6・7・10・11・12・1 月の第 3 水曜日の昼休みに「学内ミニガイダンス」を開催した。参加企業・園・法人は延べ 99 団体、学生の参加者数は大学を含み延べ 108 人であった。ミニガイダンスから内定に結びついた学生も出てきており、参加団体にも好評であった。

これらの学内説明会やガイダンスに参加した法人からは、出会いの場としての意味を感じているという意見が寄せられていて、学内でのガイダンスや説明会を行いたいとする企業・法人・公的機関からの要望もある。教職関係としては、大阪市教育委員会、豊中市教育委員会による小規模説明会も実施した。

学内説明会やガイダンスについては教授会でも開催を案内し、開催後の報告もなされ、教職志望の学生への各教員による指導につながっている。

〔改善の方向性・課題〕

昨今の、保育現場や教育現場についての報道により、先生という仕事に不安を持つ学生も増えている。現場で活躍しているこども学科卒業生とも連携して、学生の不安をとりのぞき、先生として仕事をすることを迷いなく誇りを持って目標とできるようにしたい。

多くの教職科目で、卒業生との協力関係を築くことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1：ウェブサイト「東大阪大学こども研究センター」
<https://www.murakamigakuen.jp/crs/>
- ・資料 3-2-2：ウェブサイト「キャリアサポートセンター」
<https://www.higashiosaka.ac.jp/jobssupport/support/>

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

基準領域1の教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとしては、建学の精神を継承し、各学部・学科の人材養成目的に従い、一般教養並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献するために、学部・学科ごとに三つのポリシーを策定し、教職課程教育の目的・目標を共有している。

また、教職課程認定基準を踏まえた教員を適切に配置し、教職課程の運営に関する全学的な組織として教職課程委員会を設置し、教学支援部、学外実習委員会、キャリアサポートセンターといった組織に教員と職員を適切に配備して教職課程教育の目的・目標を共有している。

基準領域2の学生の確保・育成・キャリア支援としては、入学試験時では、アドミッション・ポリシーに沿った質問による面接審査及び書類審査の総合評価により、本学学生としての適性・資質を確認し、入学後のガイダンスにおいて教職課程の説明を行い、教職を担うべき適切な学生の確保及び育成に努めている。

また、キャリア支援関係の業務・支援を一元的に担当するための組織として、専任の教員を長とするキャリアサポートセンターを設置し、「初年次教育」「リメディアル教育」「キャリア教育」の三つの基礎学力、社会人基礎力を向上させるため基盤教育推進センターを設置し、教職へのキャリア支援を行っている。

基準領域3の適切な教職課程カリキュラムとしては、こども学科は指定保育士養成施設、および幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の、短期大学部実践食物学科では、栄養教諭二種免許状及び中学校教諭二種（家庭）免許状の、短期大学部実践保育学科では、幼稚園教諭二種免許状の取得が可能な教職課程として定められた指定科目に基づいた教職課程カリキュラムをそれぞれ編成し実施している。

また、地域の各種イベントへ参加することで子ども・保護者と関わる体験で学びを得て、「東大阪大学こども研究センター」において、子どもの視点にたち、地域社会の状況や子どもの育ちの実態を踏まえて、子どもに関する総合的な調査、研究を進めるとともに、地域の企業・法人・公的機関を学内に招いた学内就職説明会などで、実践的指導力育成と地域との連携を行っている。

一方で、教員を希望する学生数の減少など教職課程を取り巻く社会経済環境はめまぐるしく変化している。今後は、様々な社会変化に対応しつつ、教職を担うべき適切な学生を確保するためには、さらなる努力が求められている。

今後も、教職課程の自己点検評価を進めることで、より質の高い教員養成を実施する努力を続けていきたい。

IV. 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

各年度末に作成する事業報告書において、各学科が教職課程科目及び教育実習の実施内容についての自己点検を行い、各基準領域に関する現状と優れた取り組み、改善の方向性・課題をそれぞれ記載する。

この記載内容をもとに教職課程委員会において、教職課程自己点検・評価報告書案として作成し、教授会において起案・承認を得たうえで、学長による決裁を得る。

V. 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

法人名 学校法人村上学園					
大学・学部名 東大阪大学こども学部					
学科・コース名（必要な場合） こども学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					50
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					45
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					31
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					5
④のうち、正規採用者数					2
④のうち、臨時的任用者数					3
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(兼担・非常勤)
教員数	7	2	4	1	46
相談員・支援員など専門職員数					

法人名 学校法人村上学園					
大学・学部名 東大阪大学短期大学部					
学科・コース名（必要な場合） 実践食物学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					46
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					33
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					7
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					2
④のうち、正規採用者数					2
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手、兼任・非常勤)
教員数	4	2	2	1	助手 3 兼任・非常勤 25
相談員・支援員など専門職員数					

法人名 学校法人村上学園					
大学・学部名 東大阪大学短期大学部					
学科・コース名（必要な場合） 実践保育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					26
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					19
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					20
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					3
④のうち、正規採用者数					0
④のうち、臨時的任用者数					3
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(兼担・非常勤)
教員数	5	2	3	1	22
相談員・支援員など専門職員数					